



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第44号

2007.9.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」の名前をつけています。

もくじ

おしらせ

- －「緑地帯」に原稿を提供
- －「ふるさと発」で八幡を紹介
- －八幡湿原自然再生工事が開始

活動報告

- －千代田のオオサンショウウオと水辺の生き物観察会
- －龍頭山の昆虫観察会
- －世界最南限のカワシンジユガイ観察会

観察会案内

- －雲月山の植物観察会
- －霧ヶ谷湿原の植生調査
- －キノコの観察会

おしらせ

●「緑地帯」に原稿を提供

中国新聞の文化欄に掲載されるコラム『緑地帯』に、8月30日から白川が原稿を提供しています。どうぞご覧下さい。

●「ふるさと発」で八幡を紹介

NHK『ふるさと発』で八幡高原が紹介されます。どうぞご覧下さい。

【本放送：中国地方向け（除く鳥取）】

9月21日（金）午後7：30～7：55

【再放送：中国地方向け】

9月23日（日）午前8：00～8：25

<http://www.nhk.or.jp/hiroshima/furusato/kako/070921.html>

●八幡湿原自然再生工事が開始

環境省が補助し、広島県が行う「八幡湿原自然再生事業」の工事が二川キャンプ場の近く、霧ヶ谷ではじまりました。これから事業地はどんどん姿を変えていきます。今の内に、今の姿を、ぜひ見ておいてください。

今後の観察会予定

9月 8日	雲月山の植物観察会	12月 2日	八幡高原の冬鳥&越冬する樹木の姿
17日	霧ヶ谷湿原の植生調査	9日	冬の工作「小鳥を呼ぼう、かんじきで歩こう」
10月 20日	キノコの観察会	1月 20日	アニマルトラッキング
21日	寒曳山の植物観察会	2月 17日	スノートレッキング
11月 11日	紅葉の山でゴギの産卵観察会	3月 9日	スノートレッキング
23日	千町原草原の保全活動		

観 察 会 報 告

● 千代田のオオサンショウウオと水辺の生き物観察会

開催日時：2007年8月11日（土）13:00

講師：内藤順一

子どもにも大人にも大人気のオオサンショウウオの観察会です。夏休みで晴天！ということもあり、28名の参加者がありました。

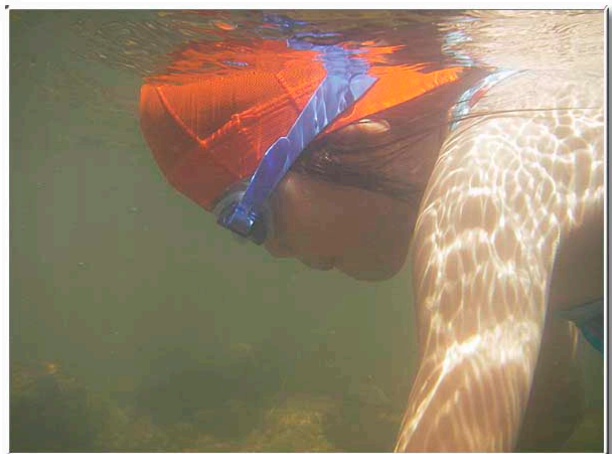
夏らしい暑さ全開のお天気だったので、川に入るととても気持ちよく、まずはびびびと入り、オオサンショウウオの住処らしき川岸の、クサヨシをかきわけのぞき込みました。オオサンショウウオは目の前にいるものに何でも食いつくという特性がある、ときいていたのでおそろおそろ探しました。何か所か手分けをして探した結果、2カ所で見つかりました。計測するためにいったん網にいれるのですが、その前にどんな風に生息しているのかを観察しました。こちらに気づいているのかいないのか、じっとして動きません。小さな子どもたちは、その大きさに少し怖がっていましたが、それでも赤ちゃんのような手や体の割に小さな目がかわいらしく、参加者みんなでかわるがわる見ることができました。その後場所を移動し、オオサンショウウオがどんなものを食べているのかを調べるため、口にホースで水を入れ、それを吐かせて内容物を調べました。最初の1匹からは何も出ませんでした。2匹目からはまだ動いているオイカワが出てきました。食べたばかりなのでしょうか、歯形がついていました。それから大きさを測り、マイクロチップによる個体識別をし、元の場所にかえしました。図鑑や動物園などで見るのとはまた違い、実際に生息している環境を肌で感じながら、オオサンショウウオを観察でき、満足度いっぱい帰路につきました。[こ]



集合して先生からのお話。子どもも大人も楽しみにしているオオサンショウウオとの対面！



お天気が良く暑かったが、水に入ると気持ちよかった。みんな散らばって右岸左岸をさがす。



水の中で同じ目線になって搜索。いるかな・・・??



あ！あそこにいるよー!! 茂みを手でかき分け観察していても、オオサンショウウオはじっとしていた。



オイカワの体にはオオサンショウウオの歯形がついていた。おそろおそろ触るこどもたち。



よく見て。つぶらな目でこちらをみる。

【みなさんの印象に残った物】

「サンショウウオが見られた事(4)」「自然の中のオオサンショウウオのそんざいが強く感じた」「オオサンショウウオの口に水を入れ 胃の内容物が出てくるところ」「サンショウウオの大きかった事」「オオサンショウウオの手」「サンショウウオの胃の内容物、小魚がまだ動いていたのにビックリ」「オオサンショウウオから、まだ生きた魚が出て来たこと」「水を飲ませてグルグル回るオオサンショウウオの姿」「初めてオオサンショウウオを見て貴重な体験をさせて頂きました。」「オオサンショウウオの水飲み後のはく姿」「サンショウウオの年齢」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「大きな川にいるんだなとびっくりした」「自然に生きるオオサンショウウオがじかに見れてとてもよかった」「エサを「とる」というより「すいこむ」ということにびっくり。子ども達が楽しそうだったのが何よりでした。」「動物園やテレビでしか見れなかったオオサンショウウオを川で見られて感動しました。」「オオサンショウウオの調査を見学できて勉強になりました。」「自然にふれることが、あまりないのでたまにはよいなと思いました。」「手がかわいい」



食べたばかりと思われるオイカワがでてきた。

観 察 会 報 告

● 龍頭山の昆虫観察会

開催日時：2007年8月11日(土) 17:00

講師：岩見潤治、清水健一

今回は初めて龍頭山での昆虫観察会でした。いつもの八幡での観察とどのような違いがあるのかな？というのも楽しみですし、岩見先生がいろいろな昆虫採集の方法を準備されて、その成果も楽しみでした。

明るいうちはフライト・インターセプトトラップというセットやピットフォールトラップという採集方法の仕掛けをしたり、先生ご自慢のほ虫網をお借りして実際に虫を捕ってみたりと、灯火採集の準備までの間を有意義に過ごしました。いよいよ暗くなって本日のメイン灯火採集の始まりです。捕虫用のライトとブラックライトを点灯して波長の短い光に反応する虫の性質を利用しての採集方法です。ミミズク(セミの仲間)やクロカミキリ・ウンモンテントウ・イカリモンガ・アゲハモドキ・シロスジカミキリ・シャチホコガの仲間・カマキリモドキ・クワコ・サザナミスズメなど多数でした。八幡と同じくオオミズアオやガムシも飛んできました。ピットフォールトラップの中にはヒメオサムシとヤコンオサムシが落ちていました。クワガタも飛んできて、おみやげのできた参加者もいましたし、楽しい不思議な夜の観察会でした。[や]

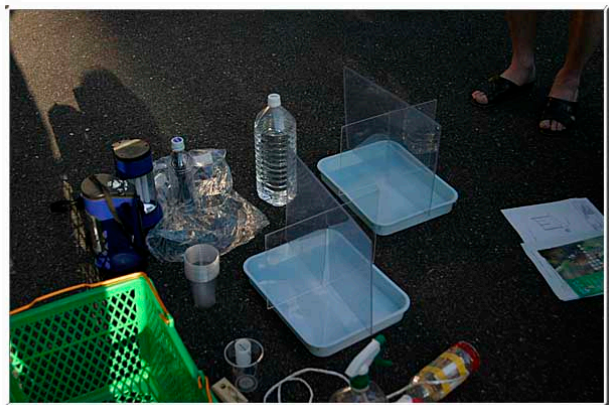
【清水先生から】

昼間の暑さは大変なものでしたが、観察する所は山頂近くの駐車場で標高800mほどで、夜ともなればやはり涼しく夕涼み観察会といった趣でした。いつも蛾の採集をしているものにとっては種類数、個体数ともやや物足りないものでしたが、夜の観察会は初めての方もあり、まずは手ごろな観察会となったようです。最近ほとんどの方がデジカメ持参で、撮影向きの大きな虫に人気が集まったようです。オオツノトンボ・ウスバカゲロウ、シロスジカミキリ、ムラサキトビケラ、アゲハモドキ、スズメガ類、オオミズアオ、ダイミョウガガンボ等が大人気で、モデルの虫達はいろんな方向からの撮影で大変でした、お疲れ様と言いたいほどでした。龍頭山の山頂付近にブナが見られるためブ

ナオシャチホコ、ウスジロトガリバ等ブナ食の蛾も見られましたが特筆するような虫はありませんでした。ブナは温帯落葉樹林帯に属し、この樹林帯の蛾が多いかと思いましたが、むしろ、暖帯落葉樹林の蛾が中心となっている感じがしました。しかし、灯火(水銀灯、ブラックライト、捕虫用蛍光灯)には多くの虫が集まること、夜も多くの虫が活動していることは十分理解して頂けたものと思っております。子どもさん達のお目当てのクワガタムシは少なく、コクワガタ、ノコギリクワガタがほんの少し捕れただけで残念でした。子どもさん達は皆、虫を追って楽しそうで何よりでした。夜の昆虫観察会も好きになってもらえたものと思っております。



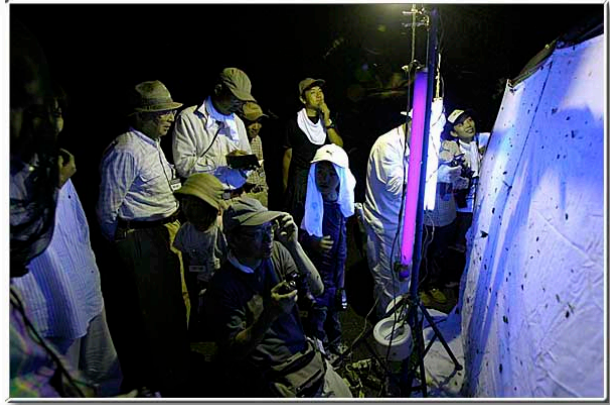
岩見先生のコレクション。昆虫の図鑑など。昆虫採集についてのお話も興味深かった。



さまざまなトラップを準備。どこに置くかは参加者に任せられた。



昆虫の通り道に仕掛けるピットフォールトラップを作成。紙コップを埋め、中なケースに糖みつ液を入れ匂いで誘う。



昆虫を見る、撮る、触る、匂いをかぐ・・・観察方法はたくさん。先生の解説もおもしろい！



さて、日も暮れたしいよいよライトトラップの開始！どんな昆虫たちがあつまるのか、楽しみだ。



トラップを仕掛けたところを見に行く。ひきあげたコップの中身をチェック。昆虫採集は昆虫との知恵比べだという先生の言葉が印象的だった。



人気のシロスジカミキリ。

【みなさんの印象に残った物】

「カミキリムシ (2)」「クワガタとシロスジカミキリに出会った事」「アゲハモドキを初めて見たこと (3)」「ブラックライトで虫をつかまえたことです。」「ムラサキトビケラ」「採集の取り方を習ったこと。」「シロスジカミキリのギチギチ音」

【参加したみなさんの感想 (抜粋)】

「いろいろな採集の仕方が見られておもしろかったです。」「集まる虫の量が多くてよかった」「多くの種類がみれて楽しい」「虫がいっぱいきてうれしかったです。」「豊平で初めてなのでよかった」「クワガタがとれたこと」「色々な採取方法を教えてもらえてよかった。」「かみきりむしがこわかった」

観 察 会 報 告

● 世界最南限のカワシンジュガイ観察会

開催日時：2007年8月12日（日）13:00

講師：内藤順一

生息地が世界の南限であることでよく知られている芸北のカワシンジュガイですが、実際にどのように生息しているかを観察できるのは稀ではないでしょうか。今回は生息地に行く前に、講師の内藤先生からカワシンジュガイの生態、生息地、繁殖の方法など、さまざまなことをスライドを交えながらお話いただきました。今回観察する生息地では、ここ100年で急速に環境が変わり、絶滅状態に近くなったそうです。それには人間のライフスタイルの変化が大きく関わっています。カワシンジュガイの幼生（グロキジュウム）はアマゴに寄生し2ヶ月ほど過ごします。アマゴがいないとカワシンジュガイは成長することができません。人間の都合でアマゴを採りすぎたため、アマゴが減り、カワシンジュガイも減っていったのです。このままでは絶滅してしまうということで、多くの人の努力によりカワシンジュガイの保護が始まり、アマゴを増やしたり、環境を整えることで、現在では今回の生息地には、約1400個体のカワシンジュガイが確認されているそうです。

現地に移動し、冷たい水の中に入っていき、水の中をじっくりと見てみると、いました！よく見ないと茶色っぽい石だなあと見逃してしまいましたが、カワシンジュガイです！少しだけ口を開けています。何か所かで確認でき、手にとって観察もできました。しばらく見ていると「斧足（ふそく）」という貝の足が外側に出てきました。これを使ってカワシンジュガイは川の中で移動するそうです。カワシンジュガイの中に卵を産むアブラボテという魚もいました。メスには長い産卵管があり、それを使って貝の中に卵を産み、その後オスが放精し貝の中で受精させるそうです。アブラボテにだけ利益があるので片利共生という形でカワシンジュガイと関わっています。

生き物たちの関連を知ると、やはり生態系の変化は自分たちの生活にも大きく関わってくる出来事なんだなあと改めて知ることができました。カワシンジュガイの生息する環境がいつま

でも続くことを願います。[こ]



最初にカワシンジュガイの生態や生活についてお話を聞いた。



お天気は良かったが風が吹き、水は冷たく感じた。川幅は狭いので一列になって進む。ところどころで箱めがねをのぞき込んでみる。



川の中ではこんな風に立って生息していることから「立ち貝」とも言われる。少しだけ口を開けて、水・えさなどを取り込んでいる。



発見!手に取ってみる.真剣なまなざしでカワシンジュガイを見つめる.手触りはどうか??



カワシンジュガイの他にも泳いでいた魚をバケツに入れていた.少しだけ触ってみよう……



カワシンジュガイと関係の深いアブラボテ.短いが産卵管が見えたのでメスと確認.

今回は、内藤宗紀さんが写真を提供して下さいました.ありがとうございました.

【みなさんの印象に残った物】

「カワシンジュガイが沢山見つかった.何十年も生きていたとは驚きました.」「カイが増えているようで安心しました.」「川をのぞくのがおもしろかった.」「カワシンジュガイに出会えたことです.」「いろいろかやさかなをみたことです.」「かいをみつけたこと」「カワシンジュガイから魚のしっぽが出ていたこと.」「生き物の生命力のはオドロキ!」「思ったより普通の貝で分布が限られているのが不思議でした.」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「涼しくて良かった.」「今後も保護活動がんばって下さい.」「川の中に入ることが久しぶりで良かったです.子どもが楽しそうにしていた姿を見て,参加して良かったと思いました.」「話と現地と両方でよくわかりました.」「古代生物そのものである.」「子どもが遊べたので良かったです.」



とにかく水の中を覗いて,手にとって触ってみる.観察会では五感をフルに使う!!

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 雲月山の植物観察会

開催日時：2007年9月8日(土) 9:30
集合場所：雲月山駐車場
講師：佐久間智子・和田秀次
準備：基本セット、弁当
定員数：40名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円)

秋の雲月山で草原の植物を観察します。「キキョウ、ナデシコ、オミナエシ〜♪」と「I love Uzutsuki」に歌われているように、山焼きをした秋の雲月山は、本当に様々な花が咲き乱れます。草原に立ち、風を感じるだけでも、気持の良い観察会ですよ！ぜひご参加ください。

● 霧ヶ谷湿原の植生調査

開催日時：2007年9月17日(月) 9:30
集合場所：高原の自然館
準備：作業セット、弁当
定員数：30名
参加費：無料

「水を流したら湿原は復元するのか？」八幡湿原自然再生事業にとって、このことは大きな命題です。今回の調査は、西中国山地自然史研究会が2002年から続けている配水実験の継続調査です。水を流すことで、乾燥した土地が徐々に湿原になってきていることが分かっています。今回は実験から4年目。さて、どのような結果が出るのでしょうか。はじめての方や、

霧ヶ谷で自然再生事業の工事がいよいよ始まりました。今は樹木の伐採が行われています。12月までには事業対象区域の半分で、中央のコンクリート水路の構造が改変され、補助導水路も設置される予定です。樹木が伐採されただけでもずいぶん景観が変わりますが、何もしなければまた数年で藪に戻ってしまいます。水路による配水の効果がどのように出るのか、楽しみな、そして不安な気持ちです。

調査に興味がある方も、気軽にご参加ください。

● キノコの観察会

開催日時：2007年10月20日(土) 9:00
集合場所：高原の自然館
講師：山手万知子
準備：基本セット、キノコを入れるかご、弁当(お昼にキノコ汁をしますので、ごはんを持ってきて下さい)
定員数：30名
参加費：1,000円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は500円)

高原の自然館を拠点に、キノコを採取して観察します。キノコの同定は、慣れた人でも難しいものもあり、一つずつ覚えていくしかありません。今回は山手先生に同行いただいて、採取したキノコを分類します。奥深い、キノコの世界を覗いてみませんか？観察会の後は、試食会も企画しています。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info